

## ヨハネによる福音書1章51節 「天からのはしご」

### 1A はしごなるイエス

#### 2A 開かれる天

1B 闇の中の光

2B 神の御座

#### 3A 神の御使いたち

1B 主の訪れを告げる霊

2B 仕える霊

#### 4A 上り下り

1B 下り:人への方向

2B 上り:神への方向

## 本文

ヨハネによる福音書 1 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、ヨハネ 1 章 18 節まで来ました。午後礼拝に 19 節以降から一節ずつ読みますが、今朝は最後の節、51 節に注目します。「**そして言われた。『まことに、まことに、あなたがたに言います。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るようになります。』**」

私たちは 12 月に入り、教会の伝統としては待降節に入っています。待降とは、キリストが来られることを待ち望んでいる時節です。先週に引き続き、神が人となられたこと、肉体を取られたことの意義について見ていきたいと思えます。本文は、イエス様が、ナタナエルというイスラエル人に対して語られた言葉です。ピリポが、彼に、約束の方、つまりメシアに会ったとナタナエルに伝えました。ナタナエルは、イエス様がナザレ出身だと聞くと、「ナザレから何か良いものが出るだろうか。」と言いました。けれども、イエス様は、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見ました。」と言われました、それでナタナエルは驚いたのです。「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」という、イエス様は、「それだけであなたは信じるのか？それよりも大きなことを、あなたは見るようになります。」と言われて、ここの箇所を語られました。

### 1A はしごなるイエス

イエス様は、ナタナエルのことを「まさにイスラエル人です。」と言われましたが、ここの言葉は、イスラエルという名が与えられたヤコブの話です。ヤコブが、夢の中で天のはしごを見て、そこに主がおられたところであります。その箇所を読んでみましょう、創世記 28 章 10 節からです。

11 彼はある場所にたどり着き、そこで一夜を明かすことにした。ちょうど日が沈んだからである。彼はその場所で石を取って枕にし、その場所で横になった。12 すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。13 そして、見よ、【主】がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。15 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

ヤコブは、エサウと共に母リベカから生まれました。エサウが先に生まれたのですが、なんと彼のかかとを掴んで出てきました。ヤコブは、「かかとを掴む者」という意味です。それが彼の人生を特徴づけるものともなりました。ヤコブがレンズ豆の汁を作っている時に、エサウが獵から帰って来ました。そして、その赤いのを食べたいとしてエサウが願うので、「あなたの長子の権利を売ってください。」と取り引きしたのです。エサウは、簡単に長子の権利を売ってしまいました。ヤコブは、祖父アブラハム、父イサクからの相続を受け継ぎたいと強く願い、また祝福は自分に与えられていると確信していたことでしょう。母リベカが、二人が生まれる前から兄が弟に仕えたと主に語られていたからです。しかし、その祝福を自分の手でつかみ取るようなことをしてしまっていたのです。

そして、イサクが年老いて目が見えなくなりました。イサクは何と、リベカを通して与えられていた神の言葉を無視して、エサウを祝福しようとしていました。それでリベカは策略を練ります。エサウのふりをして、ヤコブが肉料理をイサクのところにもって言って、イサクの祝福を横取りするという計画です。ヤコブがエサウのふりをして、父のところに行き、自分はエサウであると偽りました。そして父は騙されて、彼をエサウだと思って祝福したのです。これで、イサクからヤコブへと相続が受け継がれました。エサウは怒り、ヤコブを殺そうと考えました。それで、リベカが急いで、ヤコブに旅立ちなさいと言いつけます。リベカの親戚は、かつてアブラハムが一時期、滞在していたハラシにいます。お兄さんの憤りが収まるまで、そこにいなさいと言いました。そして、イサクはヤコブを改めて祝福し、そこで妻を迎えるように命じます。それでヤコブは長い旅に出ていったのです。

はっきり言って惨めです。自分の兄に殺されそうになって、いのちかながら逃げているだけです。そして、持っているものは自分の杖と鞆一つでした。何もなくて、野宿です。父イサクのエサウ祝福から始まって、お家騒動になってしまいました。次に行く、リベカの親戚のところではだれが自分を迎え入れてくれるか分かりません。はっきり言えば、人生の失敗です。いかがでしょうか、こういう時に何か、祝福みたいなのを期待できるでしょうか？しかし、主は祖父アブラハムに約束し、父イサクにも受け継がせた約束を、ヤコブに同じように、いやそれ以上に明らかにしてくださったのです。今読んだ、創世記 28 章 13-14 節にある言葉です。そして、これからの旅も、主は、見捨

てないと言われて、保障してくださっています。最も祝福を受けられないような、その資格を失ったような時に、これまでにない大きな祝福を下されたのです。

これを「恵み」と言いますね。恵みとは、受けるに値しないものを受けます。前回の学び、ヨハネ1章14節には、神が肉体を取られたイエス様について、「この方は恵みとまことに満ちておられた。」とあります。恵みに満ちた栄光です。そして、まことにも満ちています。ヤコブは、先に父イサクに対して自分はエサウだと偽りましたが、後に、彼がイスラエルという新たな名が与えられる時は、主の使いと格闘して、名を聞かれて、「ヤコブです」と正直に、真実をもって答えました。それで、「あなたの名をイスラエルとする」として、祝福を受けたのです。恵みは、絶えず真実が、まことが求められます。自分がありのままの自分として、神の真実に照らされたありのままの姿でいるとき、自分には罪はないなどと偽るのではなく、罪があるとして真実を告白する時、神は、ご自分の恵みを注いでくださいます。

ここでの鍵となる幻は、「梯子」であります。天からの梯子であり、地に至り、天と地を結ぶ梯子です。レッド・ツェッペリンの「天国への階段(Stairway to Heaven)」はあまりにも有名ですが、それが何を意味しているかは、議論的になっています。ある日本人の解釈では、麻薬を摂取した時のハイになる状態を描いているのではないか？というものですが、そうなのかもしれません。しかし、いずれにしても、「地上から天に上がる階段」のようになっています。地から天に上がる階段です。しかし前回、お話ししましたが、イエス様ははっきりと、「3:13 だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。」と言われました。ドラッグであろうが、宗教であろうが、また何かビジネスで成功するのか、あるいは彼女が出来てうまくいったとか、何でも、上昇しようとしても、落ちていくのが定めです。上におられる方が下に降ってこなければいけない、それが人の子であると言われるのです。この夢では、天が開かれて、それで地上に立てられているのであり、地上から天ではなく、天から地上に降ろされた梯子なのです。

ここでイエス様は、「人の子の上を上り下りする」と言われました。そうです、この梯子こそ、イエス・キリストご自身のことを示していました。しかも、天におられる神が、人として来られることによって、地上に梯子をかけたということでもあります。

## 2A 開かれる天

初めにイエス様は、「天が開けて」と言われています。

### 1B 闇の中の光

これはどういうことでしょうか？それは、「神が着座しておられる天が、今、地上に開かれた」ということです。そして御使いが上り下りしていますが、御使いをともなって、神の栄光が現れるという意味合いを持っています。これがまさに、「1:5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たな

かった。」というものです。

主のご降誕は、どのようにして人々に知られるようになったか、覚えていますね。羊飼いが夜に羊の番をしていた時です。「ルカ 2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。」とあります。天が開けて、主の栄光が周りを照らしたのです。そして、大勢の御使いが現れ、神を賛美し、「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和が、みこころにかなう人々にあるように。」と叫びました。神の御座にある光が、今、地上に照らされて、みこころにかなう人々に平和をもたらすということです。まさに、天からの梯子です。天が地につながられた瞬間です。

## 2B 神の御座

使徒ヨハネは、天が開かれた幻を見て、それを黙示録に書き記しています。「4:1-2 その後、私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラツパのような音で私に語りかけるのが聞こえた、あの最初の声があった。「ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。」たちまち私は御霊に捕らえられた。すると見よ。天に御座があり、その御座に着いている方がおられた。」天が開かれると、主の御座がそこにありました。すべてを支配しておられる王が、その玉座からご自分の主権をもって統治しておられるのです。永遠の昔から永遠の将来まで、この方のみこころのままに万物が成り立ち、この方のみこころのままに全てが動き、全てがこの方に至ります。その権威と力、栄光が、その王座に位置しているのです。

イエス様は、十字架に付けられる最後の夜に、驚くべきことを弟子たちに言われました。「ヨハ 16:23-24 その日には、あなたがたはわたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。」そのまま、父なる神の御座に近づくことができるようになると言われていたのです。なんという恵みでしょうか？今、読んだ黙示録 4 章ですが、5 章で子羊イエスへの賛美があり、6 章から地上への災いに幻が始まります。天が開けて地上に届くというのは、実はこのようなものなのです。天におられる聖なる神は、地上における汚れ、悪、不義に耐えることはできません。この方が来られるということは、地が滅びることを意味します。しかし、神はご自分の御座を、ご自分のものとされた弟子たちが近づく時に、裁きではなく、恵みの御座に変えておられるということです。「ヘブ 4:16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折になかった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」

ゆえに、私たちにどれほどの権威が与えられているか知れません。二人、三人で、イエスの名によって祈ればその祈りは聞かれるとイエス様が約束してくださいました。その理由をこう言われて

います、「マタ 18:18 まことに、あなたがたに言います。何でもあなたがたが地上でつなぐことは天でもつなぐれ、何でもあなたがたが地上で解くことは天でも解かれます。」特権です、恵みの特権です。私たちは、天から来られたイエス様がおられるので、その梯子があるので、父なる神の御前にそのまま近づき、父から求めることができるようになっています。

### 3A 神の御使いたち

そして、天が開いたら、「**神の御使いたち**」が上り下りしているということです。神の御使いは、ヤコブがラケルの兄ラバンのところから出て行って、故郷のほうに戻る時にも現れました。今、読んだイエス様の降誕の時にも、天が開けて御使いが羊飼いたちに大勢現れました。

#### 1B 主の訪れを告げる霊

御使いは、往々にして、主が来られたことを告げに来たり、主がすでに来られていることを告げる時に、遣わされています。バプテスマのヨハネの父ザカリヤに、ガブリエルがやってきました。それから、イエスの母マリアのところに行き、聖霊によって彼女がイエスをみごもることを告げました。やはり、天が地につながろうとする時、主なる神が地に現れる時に、それと共に御使いたちが共にいて、主に仕えています。

復活の時もそうでした。復活は、地上におられたイエスが、実は神の御子であることが公にされる時でした。それはまさに、地上で天にあるものが現れた瞬間でした。地においては、すべてのものが塵に帰ります。しかし、そこで死んでいた者が甦ったのです。ですから、マタイ 28 章においては、墓において大地震が起こった後に、御使いが転がした石に座っていました。また墓の中に入っていた女たちに、二人の人が現れて、イエスが甦られたことを告げましたが、彼らは明らかに天使です。このようにして、神が来られたことを告げています。

#### 2B 仕える霊

このようにして、御使いは主なる神に仕えています。イエス様が苦しまれた後にも、仕えていました。サタン誘惑を受けて、その後に御使いが仕えていたことをマルコは 1 章で伝えています。そして、ルカは、イエス様がゲッセマネの園で悶え苦しみながら祈られた時に、御使いが助けたことが書かれています。使徒たちも、そうですね、ペテロが牢につながれていた時に、御使いが来て、牢を解き放ちました。パウロがローマへ向かう船の中において、船が嵐に襲われていた時に、主の使いが彼に現れ、励ましました。私たちは、もしかしたら何かの時に、神が強く臨まれる時に、御使いもそこで私たちのために仕えているのかもしれない。明らかなのは、悔い改めた時には天において御使いが歓声を上げていることです。

### 4A 上り下り

そして、「**神の御使いたちが人の子の上を上り下りする**」とされています。上ったり、下ったりし

ています。梯子があるので、天に上ることができるし、また天から地に下ることもできます。

### 1B 下り:人への方向

イエス様は、先ほども言いましたように、天から下って来てくださいました。私たちの間で住まわられただけでなく、最後は僕の姿を取り、死に至るまで忠実でした。死んだ後に葬られましたが、エペソ 4 章には、地の下にまで下ったことが書かれています。「第3版 4:9 ——この「上られた」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということではなくて何でしょう。」地の低い所、陰府にまで下ったことを、使徒ペテロも手紙の中で話しています。

### 2B 上り:神への方向

主はそこまで低く下ってくださったゆえに、陰府にいた囚われていた人々、旧約の時代に、神を信じていた人々をすべて上に引き連れていくことができました。「エペ 4:8 彼はいと高きところに入ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」人々を、天にまで引き上げてくださいました。このようにして、主は地の低い所に行かれ、そして高い所に上られました。

こうやって、究極の梯子になってくださったのです。自分がどんなに低いところに落ちてしまったとしても、罪の中の深みに落ちたとしてもそれでも、主は救うことのできない人はいません。そして、義がどんなに基準が高く見えても、どんなに神の命令が自分には負いきれないと思っても、それでも主は私たちを引き上げることがおできになります。「I テサ 5:23-24 平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。あなたがたを召された方は真実ですから、そのようにしてくださいます。」責められるところのない者、完全に聖なる者とどうやってなるのか？と思うかもしれませんが、主はそうしてくださいと、約束されているのです。

そこでのチャレンジは、「信じる」ことです。イエス様が、下まで下り、また上に上がってくださった方として、天と地の梯子となってくださったことを知り、そうした方として信じていくなれば、必ず、神は私たちを、神のかたちへと救ってくださるのです。「ロマ 10:6-10 しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、『だれが天に上るのか』と言ってはならない。」それはキリストを引き降ろすことです。7 また、『だれが深みに下るのか』と言ってはならない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。8 では、何と言っていますか。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことばのことです。9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」